



写真:白鳥山から白紫池と韓国岳(平成21年12月21日)

「えびの高原の雪と氷」

積もった雪が月の光を反射して、柔らかな光を放つ
 夜などは、まるで美しいおとぎの国

12月も末になると、えびの高原では本格的に雪が降りはじめます。一面真っ白に降り積もって道や木々を覆い隠し、見慣れたはずの場所が知らない場所のように見えます。白い雪が青い空に映えきらきらと輝く景色、また積もった雪が月の光を反射して柔らかな光を放つ夜などは、まるで美しいおとぎの国に迷い込んだようです。

暖かい南九州にあるえびの高原では、雪は降っても根雪にならずに溶けてしまうことがほとんどです。30年ほど前までは1m近く積雪があったそうですが、近年は30cmを越えることはほとんどありません。

昭和末までは白紫池が天然のスケートリンクでしたが、温暖化に伴い氷が薄くなり、現在では全面結氷しない年もあります。平成元年からはえびの高原内に造られた人工スケートリンクが使われています。日本最南端の屋外スケートリンクで、広い空の下、韓国岳を眺めながら滑走できます。

(文/えびのエコミュージアムセンター)

白紫池

白紫池は、白鳥山の南東側火口縁で起きた噴火によりできた直径約250mの浅い火口湖。その溶岩は六観音御池にせり出すように分布している。